

平成26年12月1日

松阪市議会議長
水谷晴夫様

海住恒幸

研修参加報告書

- 研修名 自治体向けタブレット端末 ICT 推進セミナー
- 主催 東京インタープレイ株式会社
- 日時 平成26年11月21日（金）午後3時～5時
- 場所 JR セントラルタワーズ35階

議会をペーパーレス化するタブレットを体験する講習に参加しました。議員一人に一台、タブレット（i-Pad）を持たせることで、印刷物による議案、資料、各種の計画書等の配布を不要として紙代や印刷に要する手間や経費を不要とするだけではなく、執行部と議会、議会と議員の情報共有も可能とするシステムを構築するもので、このシステムを導入する議会が全国で増加する傾向にあります。松阪市議会としても近い将来、導入の是非について検討の時期がくることだろうと思います。そこで、タブレットやスマホなるものに手を触れた経験ゼロのわたしが実体験をかねて講習に参加しました。

講師は、全国で初めて「オールタブレット&クラウド議会」を実現した神奈川県逗子市議会の推進者となった議員（当時）で、現在は、自治体向けの ICT 化による業務改革や講演活動をしている君島雄一郎氏。実際に、i-Pad にタッチしながら、主に逗子市議会のデータを閲覧しながら疑似体験をしました。

定数24の逗子市議会が要した経費は、初期費用としてトータルで約400万円。月々かかる通信費は、「Side Book」と呼ばれる文書共有システム（75,000円）と24人分の i-Pad で、計144,000円ということでした。

逗子市議会が導入を決定するにあたっては、議会改革の中で議会経費の削減を目的に君島氏を部会長とした ICT 推進部会が平成24年5月から検討を開始。同年12月の定例会では実証実験を行うなどしながら、最年長の70代の議員の理解も得て全員一致のコンセンサスづくりを進めたということです。25年3月定例会で導入予算が認められ、同6月から本格運用しています。現在では、議会に出席する執行部も採用し、議員と情報共有を図っています。また、モニター画面も使うことで傍聴者の理解にも役立てているようです。

システムによって共有する情報は、議会で配布される書類のすべて。行政計画も対象となっています。議員個々への通知や、執行部が報道機関に配布資料も共有しています。また、市や議会の広報誌も閲覧できます。

このシステムによって、議場の狭い机の上もすっきりするうえ、どこに出掛けた際も議案、予算書、決算書、計画書を持参していることとなります。議場においては当該年度だけでなく前年度の決算書も閲覧が可能で、使用に習熟すれば、きわめて効果的な議員活動、議会づくりへと展開が可能となります。逗子市議会が導入したシステムの優位性は、ページの片面だけではなく、見開きで見ることができるため、予算書や決算書の閲覧に向いているという点です。

経費的にも効果もメリットはたいへん大きいものですが、いちばんネックとなるのは、議員全員が用いることができなければならないということです。そこさえ克服すれば導入の意味は大きいと思います。タブレットやスマホに触ったことがないわたしですが、慣れればなんとかなるかなという感触はありました。松阪市議会の場合は、わたしより若手の議員はもちろん、年長の議員でもタブレットやスマホはかなりの割合で普及しているようであり、意外と抵抗はなく使用可能な道具になるかもしれません。